

## 景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和5年9月)

### ～訪日客の増加や在阪球団の優勝効果あるも、現状判断DIは低下～

- 景気ウォッチャー調査・9月調査の近畿地域の結果は、現状判断が51.8と前月比で3か月ぶりの低下(−2.9ポイント)となった。好不調の目安となる50は9か月連続で上回っている。一方、先行き判断は48.4と2か月連続の低下(−4.5ポイント)となった。
- 足元の景気については、インバウンドの増加が続く中、百貨店や都市型ホテル、コンビニなどを中心とした関連業種では、好調な動きが続いている。また、プロ野球の在阪球団の優勝により、百貨店を中心としたセールが盛況となるなど、売上の大きなプラス材料となった。
- ただし、今月は厳しい残暑が続いたことで、秋物商材の販売が芳しくなかったのに加え、かねてからの物価の上昇による影響が様々な業種に悪影響を及ぼしている。スーパーや家電量販店をはじめとする小売関連を中心に、消費マインドの低下や節約志向の強化が続いているほか、製造業などの企業関連でも、価格転嫁の遅れによる経営環境の悪化が広がっている。結果として、今月はいくつかのプラス材料はあったものの、全体としてはDIが低下する形となった。
- 先行きについては、引き続きインバウンドの増加に対する期待が大きく、百貨店やホテル、コンビニなどを中心に高まっている。特に、団体旅行の解禁を受け、中国人客を中心とした増加が期待されている。さらに、円安環境が続いていることもあり、インバウンド市場全体の先行きについても期待の声が多い。
- その一方、物価やコストの上昇に対する警戒感は引き続き強い。消費者の節約志向が強まる中、価格転嫁が徐々に困難となっており、スーパーや家電等を中心とした小売関連のほか、製造業や建設業といった企業関連でも厳しい声が聞かれる。ガソリン代のほか、電気・ガス代への政府補助の延長への安堵感はあるものの、円安の継続が輸入価格の上昇につながるほか、原油相場の高騰への懸念もあり、コスト上昇への不安は業種を問わず広がっている。

#### 「プロ野球の在阪球団優勝」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	良くなっている	百貨店(サービス担当)	・今月はプロ野球の在阪2球団が優勝し、関連セールの効果で来客数が増え、売上の拡大につながっている。また、訪日外国人の増加傾向にも変化がなく、好調に推移している。
		百貨店(服飾品担当)	・9月に入っても気温がまだ下がらない状況であるが、客の消費意欲は8月に続いて高く、都心店舗の来客数は前年比で130%以上と、国内客、訪日客共に増えている。また在阪球団の優勝といった、関西に活気が出てくるような動きがあったことから、優勝セールでの動員も大きく、初日はふだんの3倍以上の売上となった。商品別には、ラグジュアリーやコスメ関連が30%近いアップとなったほか、雑貨関連も前年比で50%近いアップとなった。特に、ハンカチなどのアイテムが韓国の客に再び人気となっている。
	やや良くなっている	百貨店(マネージャー)	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行後、全体的に上向いていたが、今月は厳しい残暑で秋冬物衣料の動きが鈍く、苦戦した。ただし、プロ野球の在阪球団の優勝セールを実施したため、売上は大幅に増えている。
		コンビニ(経営者)	・プロ野球の在阪球団の優勝により、会社員による利用が増えている。
		衣料品専門店(店長)	・来客数、客単価共に上向きつつある。特に、客単価は3か月前よりも5000円上昇し、前年比でも約8000円上がっている。外国人観光客の増加に加え、朝夕の気温がようやく下がり、購買意欲が高まっている。また、プロ野球の両リーグで在阪球団が優勝し、街の盛り上がりの機運が高まっている。

家計動向関連	やや良くなっている	その他小売 [ショッピングセンター] (総括)	・プロ野球の在阪球団のリーグ優勝により、来客数が10%増えている。
		その他レジャー施設 [複合商業施設] (職員)	・プロ野球の在阪球団の優勝で、人の動きが活発になっている。
	変わらない	百貨店 (販売推進担当)	・プロ野球の人気に在阪球団の優勝などもあり、客の様子にも全体的に高揚感があり、にぎわいがみられる。
		百貨店 (売場マネージャー)	・今月の来客数は前年比で11.5%の増加と、3か月前よりも好調であるが、プロ野球の在阪球団の優勝セール開催といった、特殊要因によるものである。それを除けば、まだ景気が回復したとはいえ、来客数の2019年比は8.6%減となっている。
悪くなっている	スーパー (店長)	・今月は19日から行われたプロ野球の在阪球団の優勝セールもあり、売上目標を達成した。ただし、優勝セールを除くと、食品の売上は前年を超えているが、衣料品は気温が高かった影響で、秋物商材の売上が前年の75%と苦戦している。	
企業関連	やや良くなっている	一般レストラン (経営者)	・9月前半は良かったが、プロ野球の在阪球団の優勝が決まった翌日から、商店街には人通りが全くなくなった。月末も10月からの値上げを控え、スーパーには買物客がみられる一方、近隣の飲食店の来店はない。近隣でも3店舗が閉店となっている。
		その他非製造業 [衣服卸] (経営者)	・スポーツイベントやコンサートなども問題なく実施され、様々な需要の回復が見込まれる。一方、かつてに比べると、甲子園球場内でのビールの販売量が以前よりも落ちているなど、消費形態が変わりつつあると実感している。在阪球団の優勝やWBC (ワールド・ベースボール・クラシック) 優勝の記念タオルを受注したが、ネット予約で販売が大きく伸びている一方、専門ショップでの販売は余り伸びていないなど、Webへの消費のシフトがみられる。
	変わらない	電気機械器具製造業 (宣伝担当)	・プロ野球の在阪球団の優勝セールで、一時的に実売が伸びたが、セール期間以外は前年を下回る荷動きとなっている。
雇用	変わらない	新聞社 [求人広告] (担当者)	・関西の地元企業から出る新聞広告の推移は、ほぼ前年並みとなっている。プロ野球の在阪球団の優勝で若干のプラスはあるが、大きな影響はない。

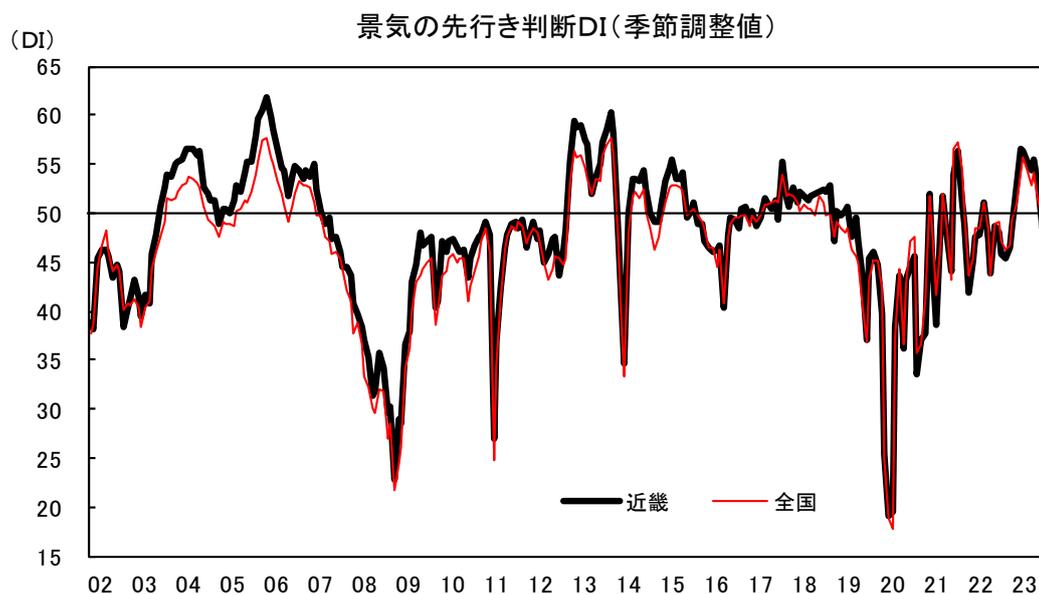
### 「残暑」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	やや良くなっている	一般小売店 [時計] (経営者)	・厳しい残暑が続くなかで、来客数は相変わらず少ないが、夏の暑さで傷んだバンドの交換が増えている。時計の売上は厳しいままであるが、修理や電池交換で何とか売上が維持できている。
		百貨店 (マネージャー)	・9月に入って残暑が厳しいなか、国内の現金客の売上は前年比で約7%増と堅調さを維持している。特に化粧品が全体をけん引する一方、ファッション関連はまだ晩夏商材が好調で、秋冬物商材に動きはみられない。食品も総菜や菓子、ペーカリー関連が、自家需要や行楽の土産需要で好調である。富裕層の購入で、相変わらず特選ブランドや時計、宝飾品の動きが良いほか、インバウンドも客単価が下がったとはいえ、来客数が倍増するなど大きく増えている。
		百貨店 (マネージャー)	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行後、全体的に上向いていたが、今月は厳しい残暑で秋冬物衣料の動きが鈍く、苦戦した。ただし、プロ野球の在阪球団の優勝セールを実施したため、売上は大幅に増えている。
		スーパー (社員)	・前年の後半以降、商品単価の上昇が続いている。残暑が厳しいため、来客数はやや減少しているが、それを客単価の上昇でカバーしている。
		その他専門店 [医薬品] (管理担当)	・食品や日配品、日用雑貨などの生活必需品は堅調に推移している。また、暑い日が続くなか、ドリンク類や感冒薬などの医薬品も順調に動いている。一方、化粧品や化粧雑貨の動きは少し鈍化傾向にあり、マスクなどの衛生・介護用品にも大幅な減少がみられる。月全体で見ると、今月は来客数、客単価共に微増となっている。
		変わらない	百貨店 (販促担当)
	百貨店 (マネージャー)		・国内の富裕層やインバウンドを中心に、特選ブランドや宝飾、時計、食料品の販売は堅調であるが、中間層の来客数はいまだに伸び悩んでいる。厳しい残暑の影響からか、9月前半は秋物商材の動きが鈍く、朝晩の気温が下がり始めた月後半に、ようやく動きが始まっている。
	コンビニ (店員)		・今月も猛暑が続き、アイス類や飲料の売行きは好調であるが、全体的には良くも悪くもない。
	コンビニ (店員)		・まだ暑さが続いているため、飲料や冷たい商品が売れている。
	テーマパーク (職員)		・今夏も余りの暑さで客の出控えにつながり、来客数が伸びていない。
	やや悪くなっている	衣料品専門店 (店員)	・今年は真夏日の期間が過去最長となった影響もあり、秋物商材にも余り動きがみられない。まだ暑い日が続いているため、客も秋物を必要としていない。
		家電量販店 (店員)	・例年と比べても異常な暑さであったが、エアコンの販売量は低迷している。量販店が次々と出店した影響もあり、来客数が減少したことも一因である。
家電量販店 (企画担当)		・来客数の落ち込みが大きく影響している。残暑が続き、エアコンなどの季節商材が一部の売上をけん引しているが、しばらくは期待できそうにない。	

「インバウンド」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	良くなる	百貨店(サービス担当)	・今後も傾向に変化はなく、新しいショップのオープンや催事の強化に加え、中国の国慶節で訪日客も増えることから、売上の増加に期待している。	
		百貨店(服飾品担当)	・中国からの客が更に増えると予想されるなか、在阪球団の日本シリーズ進出の可能性も高いことから、更なる来客数の増加が見込まれる。また、関西ではラグジュアリー商品への関心が高く、大阪・関西万博も控えるなかで、改装計画の話が増えるなど、今後も売上増を計画している店舗が多い。それに伴い、来客数にもまだ増加余地があると予想している。	
		高級レストラン(企画)	・中国からのインバウンドの回復が進み、宿泊やレストランの収入の増加が予想されるほか、猛暑による出控えも解消される。	
	やや良くなる	一般小売店[鮮魚](営業担当)	・紅葉の季節となることで、中国からの個人客などのインバウンドが増え、消費の増加につながる。	
		百貨店(売場主任)	・為替の変動や物価の上昇といった懸念材料はあるものの、国内需要はかつてのライフスタイルに戻りつつあり、更なる回復が予想される。また、今後は中国からのインバウンド需要の増加も見込まれる。かつての状態に戻るかどうかは不透明であるが、現状よりも良くなると予想される。	
		百貨店(売場主任)	・当面はインバウンド効果の本格化により、都心店は好調で、郊外店は前年並みという状況が続きそうである。全体としては、やや良い方向に向かっている。	
		百貨店(企画担当)	・今月末から始まる、中国の国慶節に伴う購買の動きに注目している。	
		百貨店(管理担当)	・中国の国慶節に伴う旅行者も増えており、今後の回復に期待したい。	
		百貨店(マネージャー)	・期待していた中国人客の訪日が、原子力発電所の処理水問題で冷え込むなか、足元の売上は予想以上に好調に推移している。中国人の訪日への期待はもちろん、まだ国内客の間でコロナ禍やインフルエンザなどの影響も残っていることから、今後の景気回復にも期待している。	
		百貨店(外商担当)	・中国からの旅行者の増加により、インバウンド売上はかなり増える予想される。	
		百貨店(マネージャー)	・10月からの値上げを考慮すると、国内の中間層の間で定着してきた選択的な節約消費により、イベントや趣味、旅行といった意味のある消費が増える。それらに関連する商材の動きが期待できるほか、追い風となっているインバウンド需要の更なる増加により、全体を大きく底上げすると予想される。	
		コンビニ(経営者)	・欧米からのインバウンドが増えているため、サンドウィッチやパンのほか、ジュースやサラダなどが多く売れている。特に、サンドウィッチの売上が10%ほど伸びている。	
		コンビニ(経営者)	・インバウンド需要が更に増えるほか、値上げによる客単価上昇とあいまって、更なる売上の増加が期待できる。	
	変わらない	その他専門店[医薬品](管理担当)	・食品や日配品、日用雑貨などの生活必需品は、値上げによる影響も落ち着き、順調に推移している。今後に向けた秋冬商材への移行のほか、インバウンドによる売上増に期待したい。	
		都市型ホテル(スタッフ)	・客室の予約は、海外の団体客、個人客共に増えている。年末年始も徐々に埋まりつつあり、この調子でいけば満室は間違いない。レストランについても、人手不足は否めないが、需要の高まりで営業時間の延長も視野に入れている。また、海外客の利用でバー営業が好調なほか、宴会も高齢者の利用が戻りつつあり、宴会場の稼働も増えている。	
		都市型ホテル(管理担当)	・原子力発電所の処理水問題によるインバウンドへの影響が懸念されたが、海外からの問合せが減る様子はない。インバウンド需要は回復が続き、客室稼働率と単価の上昇が予想されるため、売上の増加が見込まれる。	
		百貨店(店長)	・米国の政情不安や、ウクライナ危機の継続、円安の進行、物価の上昇、対中国リスクなど、良くなる要因が見当たらない。中国の個人客を含むインバウンドの戻りが救いであるが、購入品が海外の高級ブランド品だけとなれば、国内景気への影響は小さい。	
		百貨店(宣伝担当)	・国内売上の伸びが鈍化しており、インバウンド売上頼みとなっている。ただし、中国の国慶節に伴う動きには、原子力発電所の処理水問題で余り期待できない。原材料価格の高騰による物価の上昇が続く一方、賃上げは進まないため、消費者の節約志向が更に強まる懸念される。	
	企業	くやなる良	百貨店(売場マネージャー)	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加もほぼ落ち着き、足元の売上や来客数は増えつつあるが、観光客や買物客は県外や都心部に向かっている。特に、ラグジュアリー商品や衣料品ブランドでは、その傾向が強い。一方、地方ではインバウンドが増え、免税売上が増加している。
			スーパー(店長)	・インバウンドも現状と同じような動きが続く。
くやなる良		その他レジャー施設[飲食・物販系滞在型施設](企画担当)	・中国からのインバウンドがすぐに増えるとは考えにくい。	
		食料品製造業(営業担当)	・インバウンド効果がしばらく続きそうなほか、ラグビーやバスケットボールなどのスポーツ観戦者が増えている影響もあり、飲食店の客が増加傾向にあるため、飲料水の売上も少し良くなる。	
雇用関連	くやなる良	人材派遣会社(管理担当)	・今後も旅行業界は、訪日外国人の増加によって活発化が期待できる。ただし、物価の上昇といった不安要素があることも否めない。	
		新聞社[求人広告](営業担当)	・インバウンドはかつての水準に戻っているが、円安の進行や物価の上昇などの課題について、ある程度は解消のめどが立たなければ、景気は良くならない。	
	変わらない	学校[大学](就職担当)	・週末に繁華街に外出したが、高級ブランド店に長蛇の列ができるなど、インバウンド景気が復活している。今後は中国人客が更に増えることになる一方、国内客の購入意欲は今一つの状況である。	
学校[大学](就職担当)		・インバウンド需要が戻りつつあり、観光や飲食などの業種の求人も増えているが、これらの動きで景気が上向くまでには、もう少しばかり時間が掛かる。		

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		21年			22年									23年												
		9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
現 状 判 断	近畿	44.5	54.0	56.5	56.8	38.3	38.2	48.2	50.5	52.2	51.9	40.0	44.7	50.1	48.8	48.7	49.8	50.4	53.6	55.2	56.4	55.5	54.5	54.6	54.7	51.8
	(全国)	42.7	56.0	58.0	58.3	37.9	37.4	47.1	49.5	53.0	52.1	43.9	45.5	48.9	50.8	49.4	48.7	48.5	52.0	53.3	54.6	55.0	53.6	54.4	53.6	49.9
先 行 き 判 断	近畿	53.9	56.3	51.1	48.9	41.9	45.2	47.5	47.8	51.2	47.4	43.9	48.6	48.0	45.9	45.4	46.6	48.6	52.7	56.5	56.4	55.2	54.3	55.4	52.9	48.4
	(全国)	56.6	57.3	54.3	50.1	43.7	45.3	48.4	48.4	51.1	48.4	43.7	49.0	49.2	47.1	46.3	46.8	49.3	50.8	54.1	55.7	54.4	52.8	54.1	51.4	49.5

※季節調整値